

請願第9号

安全な登下校に向け、警察や公的な関係機関の協力による事故や事件の抑止力が高められる施策の充実に関する請願

1 趣 旨

子どもたちの教育において、最優先に考えなくてはならないのは安全である。本来は安全なはずの学校や通学路で起こる痛ましい事故や事件が後を絶たない。福井県では、地域全体で子どもたちを見守る体制づくりに関しては、登下校時の見守りボランティアや駆け込み所などが整えられているが、警察や公的な関係機関の協力による事故や事件を減らすための施策に関しては決して十分とは言えない状況である。

福井県内で2018年度に確認された子どもへの声かけ、つきまといは235件であった。一昨年度より12件ふえており、依然として多い状況である。警察官のパトロールや地域の見守り活動などに加え、防犯カメラを設置することは犯罪の起きにくい社会に向けては有効な手段と言える。人けの少ない通学路やパトロールの見回りが十分でない地域に設置することで事件抑止にもなる。また、登下校時の事故（全国小学校）も昨年度は10年前の1,042件から約半数の572件となったが、死亡事故の数は依然として減っていない。それだけ事故が重大化していると言え、ガードレールやスクールゾーンなどの増設が必要である。また、県内ではスクールゾーンのラインが薄れているところもあり、整備も必要である。

子どもたちが安心して登下校ができるよう、県や市町並びに関係機関の協力を得て、通学路の安全対策を強化するとともに、事故や事件を減らすための施策の充実が必要である。

そこで、下記のとおりに請願する。

記

子どもたちが安全に登下校できるように、警察や公的関係機関の協力により、事故や事件の抑止力が高められるような施策の充実を図ってほしい。

2 提 出 者

福井の教育をよくするための県民連合 会長 室田浩和

3 紹 介 議 員

西畑知佐代、辻一憲、北川博規、渡辺大輔、野田哲生、細川かをり

4 受 理 年 月 日

令和元年11月27日